

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者主体の支援を目標にした「忘我友愛」「受容共存」「実践究理」を服務規程とし、独自の理念の実践に向け取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝服務規程を復唱し、常に初心に戻り理念の実現に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの公民館で行なわれている介護予防事業の「いきいきサロン」に参加して、地元の同世代の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員全員が理解できるよう指導している。また、昨年度の外部評価の改善点は早速改善計画を作成し実施されている。	○	自分で金銭管理を行っている方の所持金の確認方法や、洗剤や漂白剤の目隠しなど安全面の管理に工夫が望まれる。

宮崎県新富町 グループホームしんとみ希望の里

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間3回開催され、サービス向上に生かされる仕組みがある。	○	利用者代表者が利用者や家族の意見及び要望を掌握できる仕組みを検討していただきたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの開設により、市町村との連携は一層スムーズになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	グループホームだよりを毎月1回発行し、ホームでの生活状況や行事、健康状況などが報告されている。家族の面会時には個々の報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に対する仕組みは重要事項として説明されているが、家族の面会時にも傾聴する姿勢である。	○	家族会がなく、家族の意見が集約できにくい、納涼祭などのホームの行事に多くの家族が参加する機会をとらえて、意見を運営に反映させていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動は最小限に抑える基本方針であるが、今年度は退職に伴う新規職員が多くなった。管理者も職員も利用者の負担緩和に努力されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やグループホームの研修に参加している。派遣研修は運営者の派遣基準により研修に参加し伝達研修が行われている。	○	職員の研修希望に沿った、法人内研修の企画や派遣研修の参加など、職員の段階に応じたトレーニングをさらに進めていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3 か月ごとに開催されるグループホーム県中北ブロック研修に参加し、同業者の交流やサービスの質の向上に取り組まれている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学の受け入れや、入居前にも一緒に過ごし雰囲気になれてもらうようにされている。希望者には、併設のデイサービスに参加させ、知人との交流や楽しみごとの拡大が図られている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自己表現に乏しい利用者に対し、常にあたたかい声かけや見守りがされている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の観察を記録し、全職員が共有できるよう全職員で検討されている。家族からの意向を把握するため、連絡はこまめに行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族も参加して作成されるが、家族の参加が困難な場合には、事前の聞き取りが行われている。	○	地域包括支援センターなど事業所以外の意見も介護計画に反映させていただきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	昨年度は、3か月ごとに見直しが行なわれていたが、今年度は新人職員が多くなり見直しに至っていない。	○	一日一人を目標に介護計画の見直しを行っていただきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と共に買い物や食事などの外出支援が行われている。	○	家族に対し、墓参り、供養、祭りなど、なじみの行事への参加や外出、外泊支援を行っていただきたい。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医の他に、協力医による隔週ごとの健康チェックがホーム内で行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身寄りのない単身者の終末ケアを行っており、終末ケアの受け入れはある。入居時に本人や家族の希望を聞き意向を共有しているが文書による確認はない。	○	重症化や終末期には、本人や家族の意向も変化がみられやすく急変もおこりやすい。文書による意思確認を検討していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者を尊重し、目立たず、さり気ない対応が職員に徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おだやかでゆったりした雰囲気であり、食事に長い時間を要しても全員完食できている。		

宮崎県新富町 グループホームしんとみ希望の里

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は併設施設の栄養士によって、高齢者向きに材料や味付け、機能に応じた食形態に十分配慮されているが、利用者が参加している状況は少なかった。	○	食事に関する一連の作業に、前向きな気持ちを引き出すような場面づくりを工夫していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	就眠前入浴を検討されたが、夜勤者が1人のため昼間の入浴になっている。その中で、長湯、シャワー浴など好みに沿った入浴がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や家族の協力で希望に応じた楽しみごと等の支援が行われている。	○	プランターの野菜や花づくり、金魚の飼育など生育するものとの触れ合いで、楽しみや役割を持つ工夫をしていただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩と週1回の併設施設の売店での買い物がある。昨年のドライブや花見などの戸外への外出回数に比較すると今年度は少ない。	○	職員だけでなく、家族の応援や協力を求め、外出支援を進めていただきたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられていない。		

宮崎県新富町 グループホームしんとみ希望の里

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	併設施設と共に利用者も参加する避難訓練が行われている。	○	避難訓練に地域住民の参加や協力をいただくことでホームへの理解をさらに深めてもらうよう、さらなる取り組みをしていただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの口腔機能に合わせた形態で調理され、完食できるよう見守り支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で排泄臭は全くない。ナツメロが流れると調子をとる人がいたり、七夕飾りがあり季節感を採り入れた、居心地良い工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	完全畳敷きで落ち着きがあり、使い慣れたたんすや裁縫箱や花瓶が持ち込まれて本人が穏やかに暮らせるように工夫されている。		

※  は、重点項目。